
学園物語シリーズ

週末の騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園物語シリーズ

【Nコード】

N7612P

【作者名】

週末の騎士

【あらすじ】

破天荒な主人公と学屋の学園(?) コメディ 主人公はだいた
い何でも出来ます

駅物語1話 突撃改札機

俺は主人公の人だ
名前？

おいおい、そんな無粋なこと聞くなよ

大事なのは主人公であるかどうかだ
で、そんな俺が今困難に直面している
知りたいだろう？

それは…到着駅内で切符を無くしたことだよH A H A H A
高校生にもなって切符をダウトしちゃったぜ
いや、意味分かんないが
切符を疑ってどうすんだよ俺

運賃は300円

手持ちは900円

300円を駅員に払えば済む話だが今日は帰りがけに本屋でマンガを二冊買う予定なんだ

だから…なんとかしてお金を払わず出る方法を考えねばーギブアップ！

方法1

強行突破

至ってシンプル

切符を使わずに己の道をゆく

男らしい…男らしいぞ俺よ

とゆわけで出発進行お茶の子さいさい♪

1 - 1

クラツシュ

改札口を中央突破

人と人の間隔の隙間を縫って…

いざ改札口へ - -

「うおおおおお！どけえええええええええ！何ものにも俺を止めることはできんつつつつのつつつつだつつつつあああ！！ひやつほ
おーーーーー」

なんと、改札口の扉が閉まった！

そんなもの、中学の頃ラグビーをやっていた俺にとっちゃあ何の障害にもなり得ないぜ

どごお

「へぶう」

俺は腹を扉に引っ掛けだらんと態勢を崩した

嗚呼

昨日牛乳飲み忘れたのが原因だなきつと

カルシウム取らないとカルシウム

1 - 2

飛翔

さあ、気を取り直して次の方法『ジャンプ』だ

え？さっきの騒ぎはどうしたって？

ああ、言い忘れたが俺はこの時間帯だけならあらゆる事象をチャラにして降り出しに戻るんだYO

ま、こんなどうでもいい『力』じゃあ、このとてつもない困難は解決できん

あくまでリセット機能だよワンタン君

間違えた、ワトソン君

本題に戻るがジャンプ

それは古今東西あらゆる分野において使役されてきたもの
有名な例はスーパーマリ。ジャンプ、週刊。年ジャンプ

あとは作者の語彙が終わってるので想像にお任せします

ちなみにジャンプの比較系はジャンパーだ

着るんだぞ！？

まじパネエ

俺は悠然とそびえ立ちピーピーとうなり声をあげる鉄の兵士達を
睨みつけた

やつらは規則正しく並び、侵入者をその強固なる扉で遮る

唯一、切符という通行証で通ることができる

だが - - 俺は跳ぶ

いや、飛ぶ！

自由を勝ち取りマンガを買ったために！

駅物語1話 突撃改札機（後書き）

ある場所で私が掲載した謎話を載せていきます

不定期更新になります

駅物語2話 戦いはまだ始まったばかりだ！

俺は改札機の上に馬乗りになっていた
ちよつとロデオな気分なんだ

はい、向こうまで届きませんでした

1 - 3

穴を掘る

単純明快

地面に穴を掘って向こう側に行く
ポケ○ンでは穴掘り野郎と言われてた俺だぜ
対人戦でなぜか一勝もできなかったけど

俺はシャベルで改札口前のタイルを掘り始めた
警察に通報されたので巻き戻し

1 - 4

反転

俺自身が何かをしようとするからダメなんだ
なら、地球を反転させればいい
そうすれば天井が地となり改札口を無視できる

「生麦生米生ナムコはあああああ！星よ反転しろ！」

適当に呪文を唱えた

すると夜だった空に突如太陽が現れ昼夜が逆転した

「ほ、本当にできた…！何ものなんだ俺！？」

しかし、地面は反転しない

地球を横向きに反転しただけなので当たり前か
俺ってドジだなあ

縦横間違えるなんて

その後地球崩壊したので巻き戻し実行

1 - 5

潜水

陸、空と来たら海

とゆわけでトイレヘレッツゴー

便器の中に体が入るわけないだろ俺の馬鹿やろう

1 - 6

奇声をあげる

「

」

（奇声をあげて改札口を狂わしてやる…！）

警察に通報されたので巻き戻し

駅物語3話 方法2

どうやら強行突破は無理なようだ
そもそも強行突破しても通報されるのが関の山
じゃあどうする…？

方法2

金

そうか

要は300円手に入ればいいわけだな

2 - 1

狩り

最近流行ってる狩りゲー3に便乗して狩りと洒落込もうジャマイカ

「よおそこのおっさん、ちょっと今小遣いなくてさー、ほらこれだよこれ。この丸いのを300分くれないかな？」

通報…されると思いきやなんとそのオジサンに諭された

「君、つらいのは分かるけど自暴自棄になっちゃ駄目だよ。お母さんを心配させるもんじゃない。お金は渡せないけどこれあげるから、もうこんなことするんじゃないよ」

うつ、えっぐ

俺は泣いているのか？

この昨今まさかあんないい人がいるなんて…

そうだよな、狩りなんて…犯罪だよな

もつと正しい道を考えよう

ちなみにリンゴもらいました

駅のホーム内で皮ごと芯ごと汁を垂らしながらむしゃむしゃと「

おいしいおいしいハグハグペロリ」と食べてたら通報されたので巻き戻し

2 - 2

自販機の下

通報

2 - 3

スリ、強盗

さっきのオッサンの改心の一撃によって発動不可

2 - 4

諦めて手持ちから払う

マンガ買えなくてあまりのショックに吐血&内蔵吐き出してしまったので巻き戻し

2 - 5

爆破

「あはははは通しやがれあははははは」

たまたま所持していたプラスチック爆弾で改札口を爆破
無論、巻き戻し

2 - 5

偽造硬貨の作成

たまたま材料と特殊な工具を持っていたので作ってみた

1 時間後

おい、完成しちまったよ

すげえな俺、なんでもできんじゃねーか

ただ、ここまで多才でも未だこの運命を打ち破れない
これで駅員に話をつけて突破だ！

通報

2 - 6

時を止める

まあ、お金と関係ないけど今更細かいことは気にしない
地球を反転させたんだ

時を何度も元に戻したんだ
時だって止められるはずだ！

「時よく泊まれ！間違えた、トマト！間違えた、止まれ！？」

即席で思いついた呪文を唱えた
時は - - 止まった

「やればできるもんだな」

この後時が再び動くことがなく巻き戻し

駅物語4話 諦めなければいつかは…

方法3

諦めたらそこでの超有名なあの名言

つまり手当たり次第やりましょう

3 - 1

切符を探す

見つかるわけないだろダアホ

3 - 2

落ちてる切符を使用

落ちてた切符を改札に入れてみた

どうやらこの駅で買われた切符らしく通報

3 - 3

懲りずに切符拾い

今度は別の切符で 日付は今日のだし、切符に書かれている駅や金額的に大丈夫だろ

ちようど1年前のものだったらしく通報

！？

なぜ… 1年前のものが落ちてるんだ…？

例え誰かが落としても夜中に清掃員の方が掃いて捨てるはず…

ミステリーだ…

3 - 4

電話で親を呼ぶ

「あ、もしもし俺だよ俺」

「はいはい詐欺ですか。ツー、ツー」

…

3 - 5

懲りずに電話

だって、俺主人公ってだけで名前ないんだよ！？

俺としか言いようないじゃんか！

気を取り直しもう一度電話

「もしもし、あなたの息子だよ」

「ガチャ、ツー、ツー」

3-6

友達に電話

「もしもし、俺だよ俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺俺」

「俺俺詐欺やめいwwその声は雷山
生クリーム太郎だろ」
いかずちのやま なまくりーむたろう

「あ、ああ」

俺、そんな名前だったんだ

「何の用？」

「金貸して」

「金の切れ目が縁の切れ目ってな。グッバイノットシーユーアゲイン」

ツ、
ツ、
...

3
-
7

金融業者に借りる

「もしもし、雷山生クリーム太郎と申しますが」

「はい、こちら三ッコリローンです。いくら希望ですか？」

「寝言は電話じゃなく枕に囁けバーカ」

ガチャ、ツー、ツー

3 - 8

埋蔵金を発掘する

シャベルでホーム内の地面を掘…通報
さっきこの方法で通報されたじゃんか俺…

3 - 9

増える

とりあえず増えてみよう

「増えろゴマ」

俺が2人になった
だから何？

3 - 10

収縮

小さくなれば抜け出せる♪

「油肩ブラ（アブラカタブラ）」

半分だけ小さくなっちゃった
どこかの知らない施設に連れて行かれたので巻き戻し

3 - 1 1

道行く人にマンガの内容を聞く

「あのー、『超パピポ戦隊ジャットマン改解怪海会員下位戒介壊悔皆灰階回廻』の179と180巻の内容知りません?」

「え?え?え?ごめんなさいもう一回ワンモアお願いします」

「ですからー……もう、名前忘れちゃいましょ!プンプン!」

「あの、私用事があるので」

………

駅物語5話 ようやく登場学屋さん

俺は雷山 生クリーム太郎(つて名前らしい)
いろいろあつて駅から出る方法を模索している

方法3までで成功することができなかった
何故か？

それは - 協力者がいなかったからだ！
どんな才人であろうが孤独では生きていけない

方法4
協力者

4 - 1
呼ぶ

どうせ協力者を呼ぶなら可愛い女の子がいいよね
少なくとも俺はそう思います
幸か不幸かクラスの友達に美少女がいるのだ
うらやましいだろ
とゆわけで電話

「もしもし雷山 生クリーム太郎だけど」
「お前の存在は世界のついた嘘だ。故に貴様はいないし、今私に電話がかかってきたのは事実ではなく虚実だ。じゃあな」

ガチャ、ツーツ

……

「もしもし雷山だけど」

「嘘だろう？じゃあな」

ガチャ、ツーツ

「もしもし生クリーム……」

「おかけになった電話番号は」

着信拒否しやがった！

そう、俺みたいな凡俗が美少女と知り合いというのは理由があ
つて

まなびや あそび
学屋 遊 - 珍しい名前だね。俺ほどじゃないけど

彼女は性格にかなりの癖があつてクラスで浮いていて
いろいろあつて彼女は俺が現在唯一の交友関係である

何があつかは作者がまだ考えてないのでぶっちゃけ俺には分かり
ませ…… 思い出せません

危なねえ… 楽屋ネタは控えよう

彼女は口調が偉そうで、それはまだいいのだが……

「もしもし」

「家電にまでかけてくるとは冗談のようなやつだなほんとに」

何かにつけて無理やり嘘嘘と疑ったり人の存在を嘘にする非人道

的なやつだ

ま、根はいいやつなんだがな（詳しくは思い出せないけど多分）

「で、何の用だ」

「好きです。付き合ってください」

「冗談は名前だけにしろ。さよなら」

ガチャ、ツーツー

……

いつも「じゃあな」と言う彼女に「さよなら」と言われました
ノリで告つたら…取り返しのないことに…

とゆわけで巻き戻し

あー、巻き戻しマジ便利やわ

「で、何の用だ」

「実はあれこれゴニョニョで」

俺は説明スキップを発動した

「は？あれこれゴニョニョ？精神科行つたほうがいいぞ。あ、今心配したの嘘。しね。じゃあな」

ガチャ、ツーツー

空気読めよ！

駅物語6話 協力プレイ

「あの、雷山ですけど」

「だから何の用だよ一体。今忙しいのに」

「実はですね……」

- 省略 -

「とゆわけで協力してくださいお願いします」

「えー、やだ、めんどい、嘘嘘嘘じゃあな」

「ちょ、ちょ、ちょっと待ってくれ、何かお礼するからさ」

「……じゃあ、私を甲子園に連れて行ってくれ」

「ああ」

とてつもない約束を交わしてしまいました

「…嘘ついたら針千本飲むか？」

「ああ」

彼女は人のことを嘘つき呼ばわりするけど自身は嘘をつかない
マジやべえ

ノリで大変なことに

約束破つたら地の果てまで、血が果てるまで追いかけてき 実行するだろう

「どうせ嘘だろ」

「本当だ信じてくれ」

「お前サッカー部だろ。じゃあな」

ガチャ、ツーツ

……

- 数分後 -

「俺は今から野球部だ」

「は？嘘」

「なら確かてみる」

一度通話をやめて学屋は学校に確かめてみた

「お前、本当に冗談のようなやつだな。びっくりして目から鼻血が出るかと思うくらいびっくりしたぞ」

「信じてくれるか？」

「まあ…絶対針千本飲ませてやる」

ひえええええ

「じゃあ、この駅に来てくれ」

「無理だ」

「なんで？」

「実はあれこれゴニョニョだからだ」

「俺の時は否定したのに自分は省略技使っただなおい！…って、え？マジすか？」

「ああ。残念ながらお前と同じ状況にあるんだ私も」

電話の相手は後ろにいた

見た目は小柄で肩で切りそろえてある綺麗な黒髪
目はややつり上がっていて、愛らしい顔立ちだが気が強そうな雰
囲気をたたえている

スタイルは…割愛します

「私も切符なくした」

4 - 2

作戦会議

「ある意味奇跡だな」

「嘘とも言っがな」

「いや、訳ワカメだから」

「は？ワカメ？」

「訳分らないの造語ですよ本当にごめんなさいでしたとすえ！」

「本当じゃなくて嘘の間違えだろ」

「てめ、この何かにつけて嘘嘘嘘嘘めんどくせえな！」

「うるさい黙れ」

思いつき蹴飛ばされた

「今蹴ったの嘘」

「蹴ったことをなかったことにしやがった！？」

「だからこれ初撃だから許してね」

再び蹴られる

いや、さっきのキックが嘘もといなかったことになってるから、これは初撃かあ…って納得するかよ！

「何しやがんだ！」

「今のも嘘」

ぐぐぐつ、見た目だけは美少女

こっちは出だしできん…

このモヤモヤどうすれば

「ちよっくら突っ込んでくるわ」

「は？」

俺は改札機に強烈な頭突きを繰り返した
ストレス解消♪

駅物語7話 お気づきかもしれませんが実は各話のタイトルと本編の内容にはち

ストレス解消が終わったところで巻き戻し

あの後ひたすら改札機に笑いながら頭突きしまくって学屋と周囲の方々を引かせまくったぜ

元サッカー部だからヘディングは得意なんだ

「学屋は今いくら持ってるの？切符の代金は？」

「所持金50円切符の代金1200円」

ははははは

「おいおいレベル上がったぜベイビー」

50円って小学生か

いや、むしろ幼稚園か

てか1200円！？」

「お前はどうかんだ」

「俺は財布の中身が900円切符が300円」

「嘘だ」

「はい？」

「お前が900円も持っているわけないだろ。嘘つきは泥棒の始まり。泥棒は悪人。悪人には天罰が下る」貴様には天罰が下った↓所

持金0」

「あの…意味が分からないんですが」

「黙れ悪人」

ひでええええ

自分だってキックしておいて嘘って言ったのに！

つか、こいつも嘘つきじゃないカルシウム！

前言撤回こいつもよく嘘をつく

今思い出したよ

忘れてるって便利♪

「2人あわせて950円。…足しても学屋出られないじゃん」

「何とかしろ」

余計なお荷物を抱えたうえに成功した後甲子園行く約束してしま
ったよ

笑いを通り越して嗤えてくるぜ

4 - 3

説明

とゆわけで巻き戻しのことを説明した

「あの、さ」

「うん？」

「お前が話しかけて友達になって、私いつもいつも嘘つき呼ばわりしても見捨てないでくれて…本当は感謝してるんだ」

おおっ！

デレた！

「お前は変な言動や嘘をよく言うけどな…こんな性格のせいで今までつまらない人生だったけどお前と出会ってから学校生活が楽しくなったんだ」

これ、フラグ立ったよね？

「だから…嘘はやめよ。世の中にはいい嘘と悪い嘘がある。それは後者だよ」

切実な顔で諭されました
巻き戻しの何がおかしいんだろ？

「じゃあ実際にやってみせればいいんだな？あと、付き合ってください」

「ああ、ごめん、さっきの嘘。お前を諭すための嘘だから」
しまいにや泣くぞ

「とりあえず巻き戻しても記憶が消えないようにするぜ、学屋の」
「は？」

俺は適当に踊り出した

「はあゝ踊り踊りダンスダンス」

「踊りと口ずさめば踊りになると思っなよ!？」

「よしこれでオーケー」

「え？私の体が光ってる！？おい、何したんだ私に！」

「ちよっくら行ってくるわ」

「え？」

「あの改札機を変形ロボに改造してくる」

俺は戦場へ向かった

駅物語 8 話 ジャイアンとスイング

俺はたまたま持っていた工具と素材で改札機を一瞬で変形ロボへと改造した

ロボは天井を突き破り脱出を試みたが自衛隊が現れたので巻き戻し

「…今のは白昼夢か？」

「とまあ、こんなことしても巻き戻せるんだなこれが」

学屋は俺の魔法にかかっているので巻き戻しても記憶はそのまままだ

「巻き戻しとかいうのも大分ふざけてるが…ポケットから有り得ない質量の工具や素材を出し、改札機を化け物に変えたお前はほんとに人間か？」

「? こんなの一般教養だろ」

「そればかりは自信を持って否定しよう。少なくとも一般教養であるのは嘘だ」

こいつ…また嘘嘘と否定しやがって

「まあいいや。これで信じてくれたか？」

「まあ…幻術的なものを見せられたことにしておく」

話が進まないので少々妥協してくれた

4 - 4

パワーアップ突撃

「まず俺が学屋の足をつかむ」

「ふむ」

「そしてグルグルと振り回しジャイアントスイングをする」

「殴っていいか？」

ジャイアンとスイングじゃ意味変わるかから間違えないように
しかも学屋は制服だからスカートを履いている

ウヘヘ

「最後まで聞け。そして手を離してお前を改札機目掛けて飛ばす。
それで改札機を破壊する」

「まずお前の脳から破壊してやろつ。冗談抜きで」

数分後

「いや、マジすんませんした」

「分かればよい」

こいつ…とてつもなく恐ろしい女だ

俺を男子トイレの個室に連れ込んだ時は正直ドキドキしたが…あ
るうことか俺の後頭部を掴んで便器で顔面に水攻めしやがった！

世界が滅びたよりきつかった…

4 - 5

パワーアップ飛翔

「まず俺が学屋の足を掴む」

「ふむ…デジャヴってる気がするが私の気のせいかな？」

「大丈夫。俺の気のせいだ」

「そうか…気のせいかな…って私じゃなくてお前の気のせい！？私関
係ないぞ！？」

「他人の思考なんか分かるわけないだろ。分かるのは自分だけ。m
y自分。I自分。me自分」

俺は意味不明な戯れ言を繰り出した

「んで、掴んだままジャイアント…」

「ごめん手が滑った」

ここで学屋の攻撃！

手が滑った…ということはパンチ

俺は上半身をガードする

蹴られた

「なぜ手が滑って足が出るんだよおい！」

気を取り直して作戦会議再開

「んで、お前を投げ飛ばして改札機の上空を通り過ぎてもらう」

「いつぺん死ぬか？」

「やろうぜウヘヘ」

俺は鬼畜と化し、襲いかかった

駅物語最終話 明日のために針のために

「本当に申し訳ありませんでした」

学屋に襲いかかった後フルボッコにされた
顔面がひしゃげるまで
時巻き戻したからへっちゃらだけどね！

4 - 6

学屋旋風

文字通り学屋さんのターンです

「なあ」

「はい、何でございましょうか」

「要はマンガ読めればいいんだな？」

「それでございます」

「それなら今持ってるぞ私」

数10分後

「あなたは神か！我が主キラよ」

「誰が死のノート使いだ」

解決しました

「で、どうやって出るんだ？2人合わせて950円しかない。俺と学屋で1500円必要なんだぞ？」

「私もお前と同じ300円分で払えばよからう。バレるわけがない」

「（・D・、）」

こうして仲良く駅を出ましたとき

帰り道

夜なので学屋を家へ送ることに

「さつき店で何買ってきたんだ？」

先程学屋は用事があるとかでATMでお金を引き出して雑貨屋に寄っていった

「針千本」

「え……」

「甲子園絶対に連れて行ってくれよな。私だって針千本人に飲ますのは嫌なんだぞ」

そりゃ、針千本無理やり飲ませて笑ってるやつがいたらサデイス
ト通り越して人格破綻者だろうな

てか、え？

マジであの約束実行する気？

甲子園連れて行かないと針千本飲む

「だって、お前時間巻き戻せるじゃないか」

「いや、駅で使いすぎたせいであと一回しか使えないんだなこれが」

「なぜ偉そうなのか知らないが…ならちようどいいな。針千本飲んだ
時のために取っておけよ」

「
…」

駅物語

ジ・針・エンド

駅物語最終話 明日のために針のために（後書き）

駅シリーズはこれで終わりです

次回からは球物語が始まります

感想とかもらえると作者が発狂するぐらい喜ぶので是非に^^

球物語1話 野球やろう

田中君たちが同時に答えた

もう君たち同一人物としてみなします

俺、雷山生ビール太郎（生クリームだっけ？生クリスマスだっけ？
？忘れた）は野球部の部室にいた

今年創部（信じられん）らしく俺と同じく1年生しかない

「あれ？君サッカー部の生ゴミ太郎じゃなかったっけ？」

「誰がゴミやねん！生クリスマスだっちゅうねん」

「はあ」

彼は部員の田中君

田中君である

大事なことじゃないけど2回言いました

「今日から俺は野球部員だ。一緒に甲子園目指そうぜ」

今月は5月

6月末に夏期大会予選がある

これに優勝しなければ俺の口腔内と喉が…ひえええ

「ああ、うちは今年は出ないよ」

は？

問題1

部員数

俺含めて8人しかいないらしい

「他の生徒は？」

「帰宅部みんな当たってみたけど収穫0」

：

「ちょっと待つちくり」

俺は電話した

「よう学屋」

「なんだ生ヘドロ」

「野球部に入らないか？」

「別にいいぞ」

あ、いいんだ

「マネージャーだよな？私、帰宅部だし暇だから構わないぞ。それに……」

「それに？」

「針千本飲ませるのは嫌だからな」

じゃあ止めましょうよ

「部員確保したぞ田中君」

「え？学屋さんって…女子でしょ？」

「彼女に選手をやってもらうキリッ」

解決

問題2

やる気

「よお電山」

彼は俺の親友の風山^{かぜやま}だ

ほら、電話で金貸してくれって言った時に「金の切れ目は縁の…」とか言っスルーしたお下劣下ネタ爆発やろうだ

「電じゃなく雷だ。確かに似てるが口頭で間違えるのは至難の業だと思うが」

「まあまあ。で、なんでお前サッカー部から野球部に入ったん？」

説明

「…ごめんよく分からなかった」

伝わらなかった

「俺たち3人以外誰かいらないのか？」

俺、風山、田中君しかない

「みんなモンスターバスター3で忙しいってさ」

「なん…だと…？」

俺も混ぜてくれよ！

大会に出れないから風山と田中君以外みんなやる気がない

「みんなに大会出れるって伝えようぜ」

「お前、新参者のくせに妙にやる気あるな…。まあいいや。で、お前以外の侵入部員って誰？」

「学屋」

「マネージャー？」

「選手」

「（・Д・、）」

とりま解決

問題3

名前

学屋以外、俺含めた8人が全員揃った
知らない顔がいるのでみんなで自己紹介することに

「雷山生クリック太郎だ」

「冗談のような名前だよなほんと…風山^{てんめい}天命だ」

次話へ続きます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7612p/>

学園物語シリーズ

2010年12月31日23時10分発行